

長野市教育委員会

大室 241 号墳の発掘調査

① 墳丘の発掘調査

241 号墳は石を積み上げた積石塚古墳です。F 区（2009 年）ならびに E-2 トレンチ（2010 年）で墳丘の端部が確認され、直径約 14m を測る円形古墳であることがわかりました。

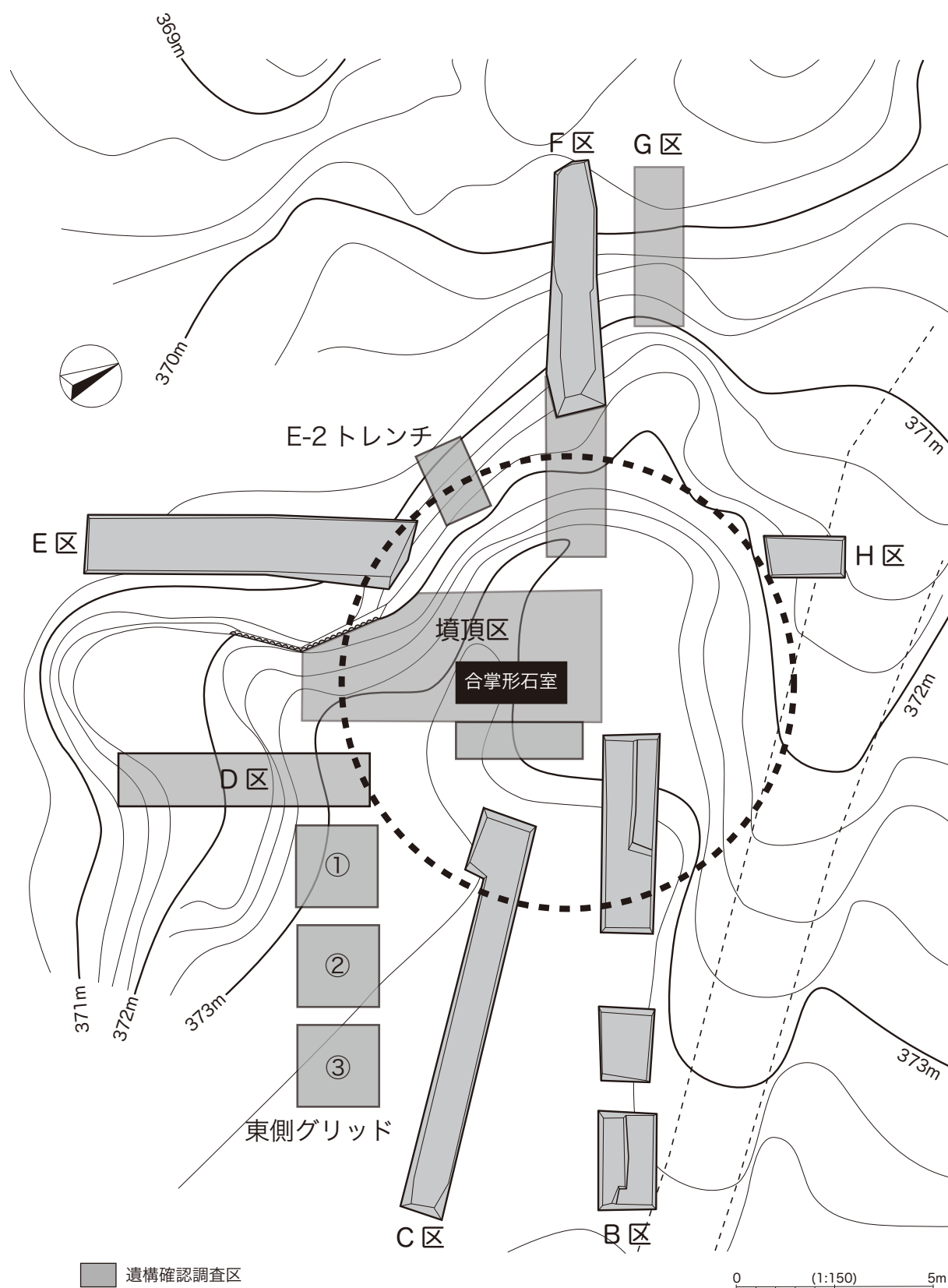


図1 241 号墳発掘調査区

② 合掌形石室の発掘調査

241 号墳の埋葬施設（まいそうしせつ）は平成 21 年度の発掘調査で「合掌形石室」であることが確認されました。本年度はこの新たに確認された合掌形石室の発掘調査を実施しました。

合掌形石室は天井石が既になく、石室内部は石が充填していました（表紙写真参照）。石を除去すると、2 枚の底板が現れ、底板の上には河原から持ち込まれたと考えられる円礫（えんれき）が部分的に敷かれていました。

底板の上や円礫の上からは、馬具の剣菱形杏葉（けんびしがたぎょうよう）・雲珠（うず）・辻金具（つじかなぐ）・鉸具（かこ）や、鉄鏃（鉄製の矢じり）、ガラス玉が出土しました。このほか、刀剣もあったと考えられます。

残念ながらすでに盗掘を受けていましたが、飾り馬具や鉄製の武器、装身具が副葬（ふくそう）されていることがわかりました。特に合掌形石室からの豊富な飾り馬具の出土は初めてのことであり、合掌形石室の研究に良好な資料を提供することとなりました。



写真1 合掌形石室 円礫確認状況



写真2 合掌形石室 馬具・鉄鏃出土状況



写真3 合掌形石室 馬具出土状況

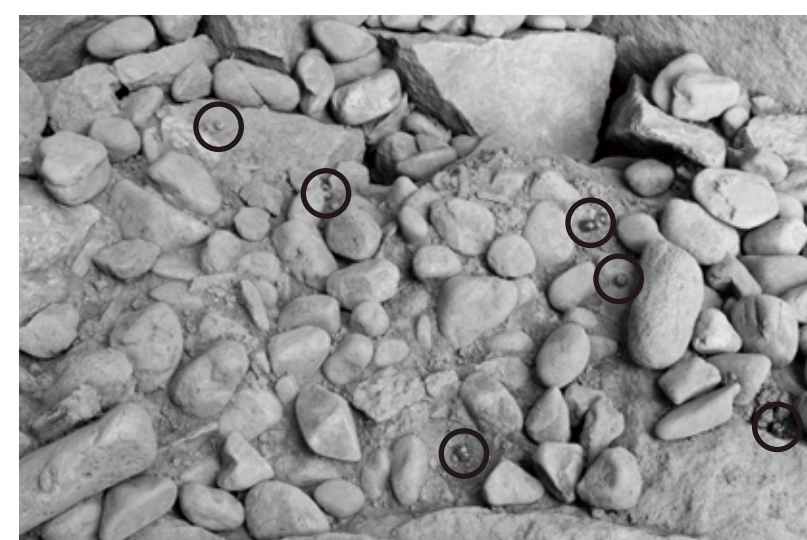


写真4 合掌形石室 ガラス玉出土状況
（○がガラス玉）